

ASPnet

文部科学省委託：平成 31(2019)年度 日本/ユネスコパートナーシップ事業

ユネスコスクール関東ブロック大会 2019

KANTO



大会プログラム

2019.10.5 (土) 10:00-17:00

@玉川大学 大学教育棟5階

主催：玉川大学 & 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

共催：東海大学、創価大学、成蹊大学、神奈川県ユネスコスクール連絡協議会

後援：ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUnivNet)

ESD活動支援センター

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

日本ESD学会

NPO法人日本持続発展教育 (ESD) 推進フォーラム (ユネスコスクール全国大会事務局)



「SDGs達成に向けたユネスコスクールと地域の連携」

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



開催の経緯と目的

この大会は、国内のユネスコ活動の普及・振興を目的とした文部科学省委託事業「平成31（2019）年度日本／ユネスコパートナーシップ事業」の一環として開催するものです。ユネスコスクールが、日本におけるユネスコ活動の基盤構築を推進する存在としてその役割を期待される中、今年度初めて「ユネスコスクール地域ブロック大会の実施」に関するメニューが盛り込まれました。

本大会では、最新の教育動向や知見、優れた実践の共有を行うとともに、関東及び近隣県のユネスコスクール関係者間の情報交換・交流を促進し、地域ネットワークの構築と発展を目指します。持続可能な社会の実現への道を共に歩む仲間を増やし、ユネスコスクールの存在価値を一緒に考えていく場にしたいと考えています。

今回の大会は、ユネスコスクールと関連の深い関東圏の大学と団体が共同で運営しています。主催者側自らが地域レベルでの交流やネットワーク強化の重要性を改めて認識するに至り、その効果を実感しているところです。SDGs達成に向けて、ユネスコの理念を深く理解し、世界と地元地域の双方に目を向けて行動するユネスコスクールネットワークが、この「ユネスコスクール関東ブロック大会」を機にさらに活性化していくことを期待しています。

タイムライン		内容
09:20	40分	受付
10:00	30分	開会式 (Room521) 進行：玉川大学 教授 小林亮 ご挨拶 文部科学省国際統括官付 ユネスコ協力官 磯谷桂太郎 玉川大学教育学部 学部長 近藤洋子 ACCU 教育協力部 部長 大安喜一
10:30	30分	全体会 (Room521) 進行：ACCU 教育協力部 大類由貴 基調講演 「ユネスコスクールの役割：国際理解、国際交流そして国際協力への貢献 —韓国の場合から」 講師：UNESCOアジア太平洋国際理解教育センター (APCEIU) 所長 林賢黙 (リム・ヒュンムク)
11:00	45分	パネルディスカッション 「ASPUnivNetとしてのユネスコスクール支援」 モデレーター：ACCU 教育協力部 部長 大安喜一 パネリスト：玉川大学 教育学部 教授 小林亮 東海大学 教養学部 准教授 岩本泰 創価大学 教育学部 学部長 鈴木将史 成蹊大学 経済学部 教授 小田宏信
11:45	15分	ガイダンス 『ASPnet Guide for Members』 について 説明：ACCU 教育協力部 藤本早恵子
12:00	90分	昼食休憩、展示
13:30	120分	分科会 A (Room502)：演劇で「平和のとりで」を築く (創価大学) B (Room503)：小学生と気候変動を学ぶ南極・北極教室 (成蹊大学) C (Room504)：持続可能なユネスコスクール活動と地域連携 (ACCU、神奈川県ユネスコスクール連絡協議会) D (Room505)：「挨拶の仕方」から体験する世界の文化 (東海大学) E (Room501)：地球市民教育 (GCED) とユネスコスクール海外連携 (玉川大学)
15:30	30分	移動、休憩
16:00	60分	総括会 (Room521) 進行：ACCU 教育協力部 藤本早恵子 各分科会からの報告 モデレーター：ACCU 参与 渡辺一雄 閉会式 (Room521) 進行：ACCU 教育協力部 藤本早恵子 来賓からのコメント UNESCOアジア太平洋国際理解教育センター (APCEIU) 所長 林賢黙 (リム・ヒュンムク) ご挨拶 玉川大学教育学部 副学部長 小原一仁 ACCU 教育協力部 部長 大安喜一
17:00		閉会

基調講演

ユネスコスクールの役割：国際理解、国際交流そして国際協力への貢献 —韓国からのケースから

韓国のユネスコスクールの現状や特徴、そしてその取り組みについて成果や課題もふまえてお話しいたします。日本のユネスコスクールとの共通点や相違点は？ 国際ネットワークを活用した交流の推進がますます重視される中、韓国のユネスコスクールの現況や教育活動について理解を深め、より活発な相互交流の可能性を探ります。

講師：Dr. LIM Hyun Mook（林賢黙／リム・ヒュンムク）

UNESCOアジア太平洋国際理解教育センター（APCEIU）所長。前職の韓国ユネスコ国内委員会在籍時から長年ユネスコスクールに関わり、ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）が企画・運営している「日韓教職員交流事業」の韓国側カウンターパートとしてなど、韓国のユネスコスクールの発展に尽力されてきました。

【APCEIUとは】 APCEIU

正式名称は、Asia-Pacific Centre for Education for International Understanding under the Auspices of UNESCO。ユネスコカテゴリー2センターとして、ユネスコや韓国政府と連携を図りながら、国際理解教育分野で研究、人材育成、教材開発など様々な事業を展開しています。近年は特に地球市民教育（Global Citizenship Education: GCED）に力を入れ、毎年国際会議も開催されています。

パネルディスカッション

ASPUnivNetとしてのユネスコスクール支援

日本のユネスコスクール支援の独自性として世界からも注目される「ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（通称ASPUnivNet）」は、2008年の創設以来、一貫して地域の加盟校や加盟希望学校に寄り添い、その活動を支えてきました。現在23機関から成るネットワークへと発展したASPUnivNetのうち、本日は関東地域の4大学が、各々の支援の内容や地域連携のあり方について議論します。

パネリスト：

玉川大学	教育学部	教授	小林亮
東海大学	教養学部	准教授	岩本泰
創価大学	教育学部	学部長／副学長補	鈴木将史
成蹊大学	経済学部	教授／成蹊学園サステナビリティ教育研究センター	副所長 小田宏信



モデレーター：

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU） 教育協力部 部長 大安喜一

ガイダンス

『ASPnet Guide for Members』について

ユネスコスクール事務局（ACCU）より、ユネスコ本部より発行された加盟校向けガイドブックの内容についてご説明します。



多様な側面からユネスコスクール活動について考えるきっかけとなるよう、今関心の高い5つのテーマで分科会を設けました。各分科会とも、学びを深める工夫を凝らしてお待ちしております。

分科会A

**テーマ： 演劇で「平和のとりで」を築く
—演劇を用いたいじめ防止の取り組みから、ユネスコ憲章の理念に迫る—**

趣旨：

ユネスコ憲章前文に謳われている平和の精神を、いかにして日々の教育実践において具現していくのか。本分科会では、「小さな戦争」とも譬えられる「いじめ」問題を取り上げ、オリジナル影絵劇を用いた小学校高学年におけるいじめ防止の取り組み事例から、その問いに迫る。演劇は、一人一人の心に「平和のとりで」を築き、「誰一人取り残さない」学校を作るための「勇気」と「想像力」を育む試みであるといえる。今もなお、子どもがいじめを苦に自らの命を絶つという最悪の悲劇を防げずにいる。演劇は、またユネスコスクールの連帯は、いじめ問題の解決にいかなる貢献をなし得るのか、参加者一人々の考えや思いの交流を通して、今我々に何が出来るのかを探っていきたい。

プログラム：

- 13:30～13:40 趣旨説明・ウォーミングアップ
- 13:40～15:00 話題提供
 - ・ 演劇
 - ・ 取り組み解説
 - ・ 課題提示
- 15:00～15:30 全体交流・クロージング

担当：

話題提供 三津村正和（創価大学教職大学院）
司会進行 関田一彦（創価大学教職大学院）



分科会B

テーマ： 小学生と気候変動を学ぶ南極・北極教室

運営： 成蹊大学

内容：

模擬授業1 南極観測と地球温暖化について（25分） 13:30-13:55
講師：福西 浩（東北大学名誉教授：第11、17次南極地域観測隊越冬隊員、第22次南極地域観測隊夏隊長、第26次南極地域観測隊越冬隊長）

模擬授業2 昭和基地のエコな料理（35分） 13:55-14:30
講師：渡貫淳子（第57次南極地域観測隊越冬隊員・調理隊員）

意見交換会 （14:55～15:30）

趣旨：

SDGs目標13にも位置づけられている気候変動への対策は、持続可能な社会実現のための極めて重要な取り組みと言えます。現在や過去の全地球規模の気候変動についての理解は、私たちの未来への大切な指針となります。特に、南極や北極の自然環境を通して、過去の地球環境変動や地球温暖化の仕組みについて、詳細に理解できることが分かってきました。本分科会は、極地の自然を通して「気候変動を知る」ことや、持続可能な生活を実現するために、南極昭和基地での生活をヒントに普段の私たちの生活を見つめなおすことをテーマに、模擬授業、気候変動や温暖化に関わる教材の紹介、今後の地球環境教育等についての意見交換などを目的として実施します。



分科会C

テーマ： 持続可能なユネスコスクールのあり方を考える ー地域連携を軸にー

運営： 神奈川県ユネスコスクール連絡協議会、ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

ファシリテーター： 望月浩明（神奈川県ユネスコスクール連絡協議会事務局長）

話題提供者： ①宮崎大（横浜市立幸ヶ谷小学校教務主任）
②山本純平（神奈川県立有馬高等学校教諭）
③中原章子（千葉県高等学校教育研究会ESD部会事務局長）
④平方一代（港ユネスコ協会副会長）

趣旨：

この分科会ではユネスコスクールの運営を持続可能にする地域連携のキーポイントとは何かについて考えていきます。

毎年実施されているユネスコスクール活動年次活動調査の項目の中で「ユネスコスクールとしてESDに取り組む際の課題」の部分を見ると、活動を継続するための課題点が例年幾つもあげられてきています。

教員の異動や校内の協力体制など、持続可能なユネスコスクール活動を行うために熱意ある教員ほど悩みを抱え、また孤立感を感じています。それぞれの学校で直面している課題を共有し、ユネスコスクールに係わるもの同士の連帯意識を育むとともに、地域連携の先進事例(学校を超えた地域ネットワークの構築、地域のNPO、関係機関との連携など)から、課題解決への糸口を参加者全員で考えていきませんか。

前半では小学校、高等学校の現場から活動推進のための課題を報告して頂き、後半ではユネスコスクールのネットワークを作り、様々な共同プログラムを実践している地域からの報告と地域ユネスコ協会と連携した活動の紹介をして頂く予定です。

分科会D

テーマ： 「挨拶の仕方」から体験する世界の文化

運営： 東海大学教養学部ユネスコチーム・ユネスコユース事務局

ファシリテーター： 小貫大輔（教養学部国際学科 教授）

趣旨：

東海大学の教養学部は2015年、ASPUnivNetの一員に加わり、教員による「ユネスコチーム」と学生や卒業生による「ユネスコユース事務局」を立ち上げ、関東圏、特に神奈川県のユネスコスクールを応援してきました。その活動の一環として、毎年「UNESCOユースセミナー」と題した1泊2日の合宿形式のイベントを開催してきました。ユネスコユースに認定された学校、これから認定申請を検討している学校から高校生や教員が参加し、関東圏、特に神奈川県内の外国学校から参加する高校生や教員たちと、グローバルな課題について意見を交わすことを目的としたものです。

今回の分科会では、このユースセミナーの雰囲気味わっていただくとともに、参加者の皆さんの実践の中から「多文化共生」を題材とした授業やその他の活動についての経験やアイデアをシェアしていただきたいと思います。まずは、東海大学で学ぶ留学生たちに手伝ってもらって、私たちがアイスブレイクとしてしばしば使う「多文化あいさつリレー」を体験していただこうと思います。「こんにちは」の挨拶はどここの文化にも存在する儀礼ですが、それをどんなジェスチャーをつけておこなうかということ千差万別です。挨拶のジェスチャーは、それぞれの文化が最も大切にしている価値観をよく表しています。それがどんな方向を向いているのか、一緒に考えてみませんか。



11 住み続けられるまちづくりを



17 パートナーシップで目標を達成しよう



分科会E

テーマ： 地球市民教育（GCED）とユネスコスクール海外連携
ーアジア太平洋地域のユネスコスクールとの連携を視野にー

運営：玉川大学教育学部

第1部：話題提供 石森広美（仙台二華高等学校）
「生徒の心に響く深い学び ～グローバルシティズンシップを育む教育活動～」

第2部：パネルディスカッション
「地球市民性の育成に向けてユネスコスクールには何ができるか？」
パネリスト：リム・ヒュンムク（APCEIUアジア太平洋国際理解教育センター所長）
石森広美（仙台二華高等学校教諭）
辰野まどか（一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト（GiFT）代表理事）
司会： 小林亮（玉川大学教育学部教授）

第3部：ワークショップ 「ストーリー・ベースド・ラーニング（SBL）を通してGCEDを自分ごとに
する」
辰野まどか（一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト（GiFT）代表理事）

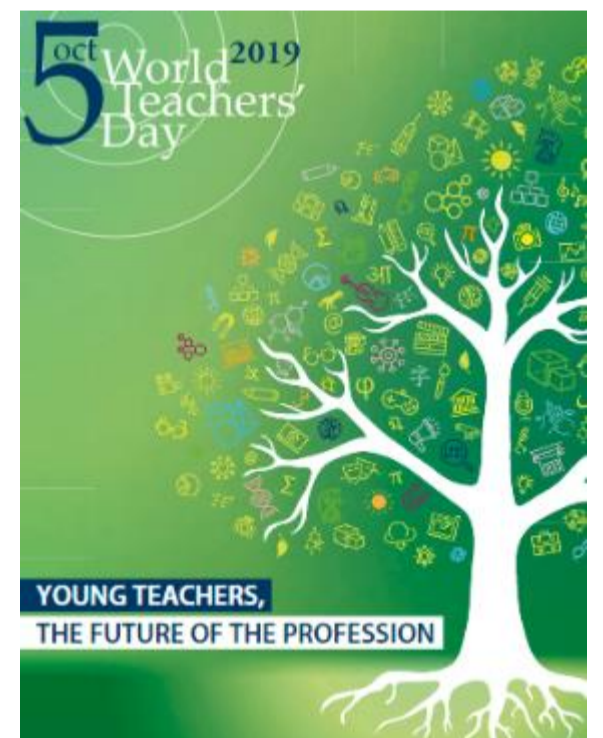
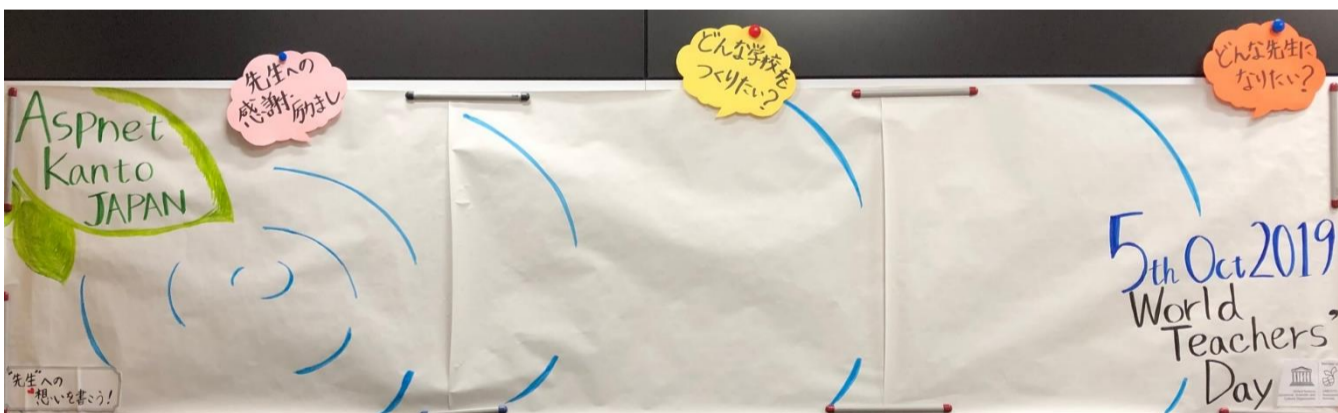
趣旨：
世界的学校間ネットワークというユネスコスクールの特性を活用し、ユネスコの提唱するESDとGCEDを軸とする価値教育の理念をどのように授業実践に具現化していくかについて、海外連携の可能性と日本の学校文化におけるビジョンを模索します。

4 質の高い教育を
みんなに



「世界教師デー」のメッセージボード

10月5日は世界教師デー（World Teachers' Day）。みんなで一言メッセージを書いてお祝いしましょう！
絵でも文章でも、何でもOKです。記念撮影もどうぞ(^^)



展示・資料コーナー

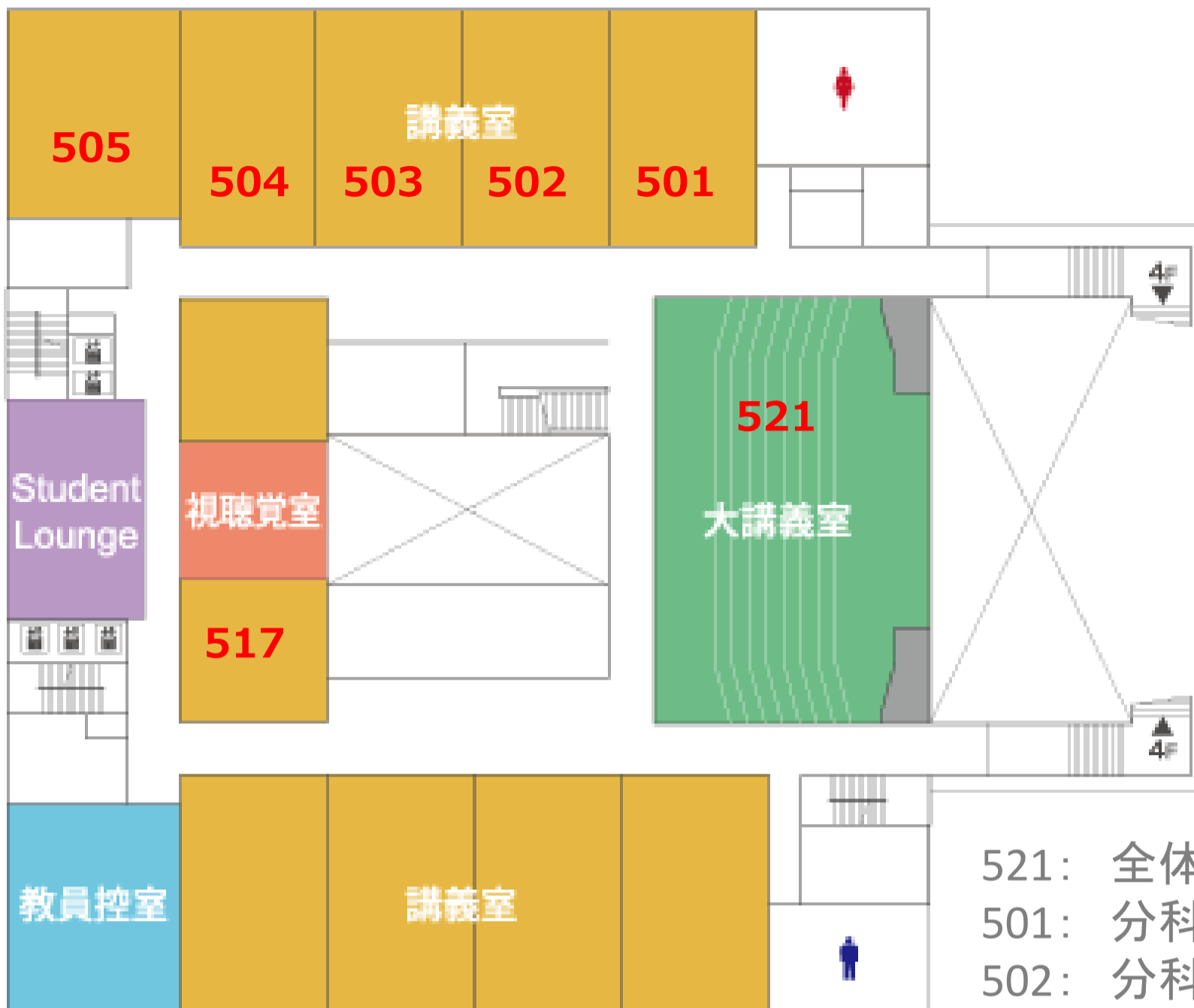
主催・共催・後援機関、及び関連団体の資料を展示または配布しています。ぜひお越し下さい。

【展示／資料配布している関連団体】（順不同）

- 一般財団法人ジャパンアートマイル
- 公益財団法人日本野鳥の会
- NPO法人Save the Asian Monuments
- 国際協力NGO JSC NPO法人ジャパンスポーツコミュニケーションズ
- 特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン



会場平面図



- 521: 全体会メイン会場
- 501: 分科会E会場
- 502: 分科会A会場
- 503: 分科会B会場
- 504: 分科会C会場
- 505: 分科会D会場
- 517: 大会本部、来賓控室



昼食会場のご案内



朔風館2階

お弁当を注文された方は、こちらでお受け取りください。ご持参いただいた昼食もこちらでお召し上がりいただけます。(食堂は営業していません)